

せいきょう連ニュース

岡山県生活協同組合連合会 TEL : 086-230-1315 HP : <http://okayama.kenren-coop.jp/>

岡山県副知事との懇談会

2月9日(月) 県庁 副知事室

生協と行政との協同・連携にむけて

岡山県副知事との懇談会を開催し、行政からは木幡副知事、くらし安全安心課岡野課長、吉田総括参事、前田主任に参加頂き、生協連からは会長、副会長、女性理事が参加しました。

県生協連から懇談開催のお礼や昨年の懇談での話にふれて挨拶を行い、その後県生協連全体や会員生協の取り組みについて紹介し、懇談を行いました。

副知事から、生協の地域社会づくりの取り組みとして、幅広い活動が行われていることや昨年の懇談での話を受け止め市町村との関係づくりを進めていること、生活支援サービスの取り組みに対する期待について話されました。



中央 木幡副知事

また、鳥インフルエンザの発生に対する風評被害への対応や認知症高齢者、独居高齢者、中山間地も含めて、地域での見守りに対する期待が述べられました。

高齢者の消費者被害が171件8.6億になっており、啓発とともに声掛けが大切であることもふれられました。最後に県との協定含めた連携について、前向きに検討していきたいとの回答があり懇談を終了しました。昨年と同じメンバーでの懇談であり、和やかな雰囲気で行われ、連携等の具体的な回答を頂くことができ、有意義な懇談となりました。

くらし安全安心課との懇談会

2月9日(月) 県庁地下南会議室

消費者被害情報の発信・資料の活用を

くらし安全安心課から岡野課長、吉田総括参事、前田主任が参加され、県生協連から7名が参加して懇談を行いました。

くらし安全安心課岡野課長から、生協がくらしの全分野に渡って取り組みをしていること、食の安全安心の取り組み、消費者教育推進計画を策定しライフステージに応じた消費者教育を実施すること、生協に対する期待などにふれて挨拶が行われました。

県生協連近藤会長から、要望に対する回答を頂いたこと、生協に対する認知を高めていくことへの支援、本日の懇談会がスタートとなり、取り組みの具体化ができるように挨拶を行いました。



くらしの安全安心課岡野課長



続いて、要望に対する回答が行われ懇談に入りました。消費者被害に対しての教育では、コーディネーターを配置し福祉関係や市町村との関係づくりを進めていること、見守りの仕組みについて検討していくこと。地域包括ケアの関係で長寿社会課の会議に参加し、連携した取り組みができるようにしていくこと。県との連携協定については、早い段階で連絡が入ることなど回答が行われました。

つながりあって、地域の見守りを

「つながりあって、地域の見守りを」を全体テーマとして、消費者団体と消費者庁で実行委員会をつくり、地方消費者グループ・フォーラムを開催し、当日は200名近い参加者で学び交流しました。

消費者庁板東長官より、消費者行政の動向として相談件数の増加、高齢者の消費者被害の状況にふれ、課題として、地域社会の対応力を高めること。そのために予算を増やし自治体での対応や法整備を進めている。「地域の見守りネットワーク」を拡げていく必要があること、消費者が合理的な力を身につけ判断していくことの重要性や、行政・消費者団体など様々な分野の人と連携、協同しながら進めることについて話されました。



消費者庁板東長官

徳島県からは消費者情報センターにより「自立した消費者の育成のために」をテーマとして、身近で気軽な相談のコンビニ化をめざし地域人材の育成を重視していること、消費者大学の開催によるリーダーの養成やくらしのサポーターの養成を行いその後の活動につなげていること、四国大学との協定を結び、消費者教育の取り組みを進めていることについて報告されました。

団体等からの活動報告では、①「自治体・商工会と連携した買い物・見守り支援」ヤマト運輸株式会社高知主管支店。②『地域つながりセンター』創立について生活協同組合しまね。③「見守り活動について」生活協同組合とくしま生協。④地域とともに支えあう「消費者の安全安心」寸劇「もしもし、市役所医療保険課のサギ川です」が行われました。

分散会では、これから高齢者の見守り活動、消費者教育にできることをテーマとして活発な交流が行われました。



寸劇

食料・農業・農村基本計画の見直し、 食品の安全の確保、食育、食文化の传承を

県生協連、県消団連を含む消費者9団体9名の参加で意見交換会が開催されました。

消費安全部伊藤部長から開会にあたり、「食の安全」施策の一環として消費者団体との懇談会を開催。食料・農業・農村基本計画の見直しや環境保全型農業などの意見を求めることにふれ挨拶が行われました。

続いて農政局からの情報提供として報告が行われました。

食料・農業・農村基本計画の見直しについて、農業総産出額は20年間で2.7兆円の減少、特にコメの消費低下や就業者数の減少、耕作面積は25%減り、耕作放棄地は40万ヘクタールと規模が倍になっている。自給率の低下(39%)など踏まえ、食料・農業・農村基本法は、①食料の安定供給の確保 ②農業の有する多面的機能の発揮 ③農業の持続的な発展 ④その基盤としての農村の振興 を理念として掲げ、果たすべき役割とめざすべき政策方向を明示している。また、今回は新たな指標として食料自給力(どこまで生産できるのか)もあわせて目標とし進めていくこと、食品の安全についての最近の動向について説明されました。各消費者団体からは、特に食料・農業・農村基本計画に関し、食の安全確保や自給率を高めることなど意見が出されました。



150名の参加で組合員活動交流集会開催



オルガホールにて、2014年度組合員活動交流集会を開催しました。オープニングは、岡山医療生協の緋田さんより、脳の活性化につながる「笑いヨガ」について実践して頂き、全員で実際に体を使って行い、体も心もリフレッシュできたと好評でした。

関西国際大学 長谷教授より「少子高齢化社会と地域での暮らし、そして私たちにできること」と題して、講演を行って頂きました。2025年にむけて後期高齢者の増加、要支援 150 万人の人が介護保険から外れ、市町村での受け皿をつくらないといけないこと、生活支援サービスの担い手は、地域に住んでいる人たちであり、高齢者も生活支援の担い手として活躍することが期待されている。地域包括ケアシステムは、市民参加の地域づくりであること、介護予防を徹底的に行っている埼玉県和光市は、認定率が低く地域包括のモデルになったことが紹介されました。

取り組みにあたって、それぞれのスキルを活用し楽しいこと、自分ができること、まわりを巻き込むことなど無理しないでやることについて話され高齢者が担い手となっていくことなど私たちが出来ることについての方向性を示して頂きました。

団体報告では、倉敷医療生協から「地域住民・行政・医療生協が協働した健康づくりの取組」をテーマに、行政、他団体と連携して地域の課題であった健康診断の受診率を高める取り組みなどの報告が行われました。

続いて県労済生協から「子どもネットワークおかやま」をテーマに、発生している自然災害への対応や子ども防災ネットワークでは、防災体験プログラムとして子ども達が自らの命を守る「姿勢」を育む防災教育を実施していることなどの報告が行われました。

参加者からは、「先生のお話は、とても分かり易くあっという間に時間が過ぎました。内容はとてもためになりました。自分に何が出来るのかと考えさせられました。」「笑いヨガからはじめて、色々な話を聞いて良かったです。色々な人が色々な活動をして色々な事を伝え、教えて、関わっていく。すばらしい事ですよ。」などの感想が寄せられました。



関西国際大学 長谷先生



倉敷医療生協 報告



県労済生協 報告

第3回県生協連 監事研修会 開催

2月5日(木) オルガ スカーレットA

内部統制システムの監査の重要性

第3回目となる監事研修会は「日常監査」をテーマとして、おかやまコープ赤坂常勤監事が講師となり実施しました。

最初に日常監査と内部統制システムの監査にふれて話があり、その後人事総務部門を想定した日常監査の視点について、リスク管理、事業の効率性・有効性・適性性、コンプライアンス体制、情報の保存管理体制、決算関係の適正性確保体制の項目ごとに、参加者でワークをしながら整理していきました。内部統制システムをこれから構築していく生協が多く、難しい面がありましたが、日常的に何を監査しないといけないのか学ぶことが出来ました。



協同組合のアイデンティティの実践を

岡山県県民生活部くらし安全安心課岡野課長より、生協が生活、医療、福祉などの分野で県民生活の安定と向上に寄与していること、県行政として高齢者を中心とした振り込め詐欺への対応や悪質業者の取り締まり、消費者教育推進法等にふれて挨拶を頂きました。

「社会の動きと生活協同組合の可能性」～ICAブループリントを読み解く～をテーマとして日本生活協同組合連合会和田専務の講演が行われました。

国際協同組合年の成果を踏まえ、ブループリントが策定されたこと、協同組合10年計画のめざすこととして、①経済、社会、環境の持続可能性において定評あるリーダー、②人々にもっとも好まれるモデル、③最も急速に成長する事業形態であり、その戦略として5つの点について説明されました。また2020ビジョンと比較しながら、その特長について話され、特に「運営参加」は世界共通の課題であり、協同組合のもっとも重要な資産となること。協同組合のアイデンティティを確立する項目では、何のために生協が存在するのかのミッションを明確に取り組んでいくこと。最後に第12次中計の3つの視点やC.O.O.P商品ブランドの再構築、地域社会づくりへの参加などにふれて重点課題の説明が行われました。

「江戸一目図を歩く ～鋏形蕙斎の江戸名所めぐり～」をテーマとして、津山郷土博物館館長尾島治さんから、一目図に描かれている四季や江戸時代のくらしの様子、観光名所、当時の産業など拡大した図をもとに詳しく解説して頂き、大変興味深いお話を聞きました。



日本生協連和田専務



津山郷土博物館尾島館長

3.11を忘れない みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

第19回 2015年3月5日

これからも待ち受けるハードル

沿岸部の景色はまだ模様に変化してきました。がれきの処理が終わり、土地の高上げ工事や復興住宅の建設が進む一方で、壊れた防波堤や水門、建物がいまだに残る場所もあります。



第31回志津川地区まちづくり協議会役員会(2/24開催)。当日は浸水区域の土地利用計画や店舗付住宅について話し合いがもたれた。

仮設住宅には現在も約7万人が暮らし、集団移転事業で住宅建設が可能になった宅地は計画の3割にも達しません。造成工事が長引き、地価や建築費の高騰でより厳しい状況に直面している人や、移転を待ちきれず故郷を出た人たちもいます。

南三陸町志津川地区まちづくり協議会は、住民による自主的な復興まちづくりを進めるため、集団移転や市街地形成など様々な協議を重ね、意見を集約して行政に提言しています。

「4年も経つので住民の間には焦りや不満が出ている」と協議会の及川善祐会長は話します。「しかし我々住民の気持ちがバラバラでは統一したまちづくりはできない。そうならないように良い方法を決めて、協力し合う環境をつくっていくのが協議会の役目です」。

集団移転一つとっても区画配置、移転方法、店舗付住宅の内容など懸案事項は無数にあります。さらに高齢化が進む移転先で買物や病院、交通など生活に必要なインフラをどう確保するか、個々のニーズと公平性のバランスをどうとっていくかを考える状況が続きます。志津川地区には3ヶ所の集団移転団地が計画されています。工事完了はまだ先で、なかには再来年引き渡し予定の区画もあります。家が建つのはその後で、さらに新コミュニティ形成という最大の課題が待ち受けています。及川会長は「いままで交流のなかった者が隣組になる。そのなかで新しいコミュニティをつくっていかねばならない」とその難しさを説明します。ハードルはまだまだ幾つも残っています。被災した方々がそのハードルを飛び越える過程で確実に希望の種を増やしていくことを祈らずにはいられません。



2015年秋の開院予定を目指し、工事が進む「(仮称)町立南三陸病院・総合ケアセンター」

会員生協トピックス

岡山大学生協 〈自宅生&保護者説明会の取り組み〉

岡山大学生協では、毎年新入学の下宿生に「アパート・マンション」の紹介を行っていますが、自宅から通学予定の新入生にも「自宅生&保護者説明会」を開催し、高校時代とは大きく変化する大学生活について様々なアドバイスを行っています。

今年も岡大生の先輩として生協学生委員会のメンバーが中心となって「推薦合格者&保護者説明会」「自宅生&保護者説明会」を、推薦・AO・前期・後期などそれぞれの合格発表のタイミングで合計10回開催し、岡大生のライフスタイルのご案内・生協加入・教科書購入方法・生協店舗の活用方法など様々な情報提供を行いました。

全10回の累計参加者数は、全自宅生の約8割にあたる650組1,355名の新入生と保護者にご参加頂くことができました。



岡山県学校生協 〈春の一人一品利用運動のご報告〉

運動参加職場数 507 校園 (前年 539 校園)
運動参加人数 2,922 名 (前年 2,997 名)
運動結集金額 5,913,258 円 (前年 5,771,360 円)

2015 年春の一人一品利用運動にご参加いただいた人数に100円を乗じた額292,200円を社会貢献活動として支援金をお届けしました。

- 「広島市8・20豪雨災害義援金」へ 146,100円
- 「岩手県の公立学校」
(贈呈校は、岩手県学校生協さんに一任)へ 146,100円



越喜来小学校



高田高等学校

岩手県学校生協を通じて前年度支援金(312,670円)を震災被害のあった学校へお届けしました。

おかやまコープ 〈「～なくそう核兵器～ 届けニューヨークへ」を開催〉

3月9日(月)、「～なくそう核兵器～ 届けニューヨークへ」がオルガホールで開催され、104名が参加しました。長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授の中村桂子先生による学習講演では、核兵器をめぐる世界の現状やNPT再検討会議での論点などについて学びました。

また、4月にニューヨークで開催される「NPT(核不拡散条約)再検討会議」に代表派遣される3名の壮行会が行なわれ、各エリアの組合員さんから、平和を願う想いのこもった手作りグッズが託されました。



104名が参加しました



エリアから託されたグッズを前に
(右から 岡城さん、森本さん、金高さん)



中村先生「核兵器のない世界が実現できるかどうかは私たち次第です」

岡山県労済生協 〈全労済文化フェスティバルを開催〉

全労済岡山県本部では、火災共済60周年を記念して組合員感謝ミュージカルを開催しました。

2015年3月1日(日)岡山シンフォニーホールにて、劇団俳協による「あらしのよるに」を全労済文化フェスティバルとして開催し、1,602組・5,833名の応募の中から抽選で選ばれた419組・1,548名に入場券を発送し、1,336名(参加率86.3%)の参加となりました。



三井造船生協 〈使用済み切手・コイン募金の寄贈〉

3月2日(月)、三井造船生協家庭会の毛利静江会長と藤原キヌ子福祉委員会リーダーの2名が、「日本キリスト教海外医療協力会」の窓口となる岡山博愛会病院を訪問し、三井生協の各店で集めた使用済み切手とコイン募金の寄贈を行いました。この寄贈は毎年行われており、今年は使用済み切手5kgとコイン募金53,140円を寄贈しました。

使用済み切手の売り上げと募金はアジア・アフリカの海外医療協力に役立てて貰っています。



津山医療生協 〈バレンタイン行動〉

2月13日、午後2時から1時間コープ林田店頭でバレンタイン行動をおこないました。

医療・介護の制度が変わり、自己負担が増えることを話しながらはがきやチョコ、風船を配りました。今回は机を用意して、渡したはがきにすぐアンケートの返事を書いてもらって集めました。健康や介護に関心が高いことがうかがえました。

〈東部支部健康集会〉

3月14日東部支部健康集会が開催されました。12月にできたばかりの支部の初めての取り組みでした。

健康チェック、医師の講話、大正琴の演奏、ヨガ体験、バザーなど盛りだくさんの内容でした。60人近くの参加があり、盛況でした。



倉敷医療生協 〈300名超の参加者 平和フェスタ〉

2月11日に「平和フェスタ」が開催され、300名を超える参加者で会場の医療生協会館は一杯となりました。

東京大学大学院教授・九条の会事務局長 小森陽一さんからは記念講演「憲法を守り発展させるために一いま私たちにできること」の中で、9条を守り発展させる運動は全国各地で草の根の運動として大きく広がっていることなど紹介がありました。

〈保健大会〉

3月14日に第30回保健大会がくらしき健康福祉プラザで開催され200名の組合員が参加しました。節目となった今回は「歩いて動いて延ばそう健康寿命」をテーマにセフティーウォーキングについて学びました。午後からは「歩行のための筋力アップ」「脳いきいき教室」「中高年の社会参加のために」など、6つの分科会でかしこくいきいきと暮らす術(すべ)を学びました。



講演する小森陽一氏



指導する土井龍雄氏

岡山医療生協 〈2014年度後期運営委員研修交流会〉

岡山医療生協では一年に2回、地域の支部運営委員による研修交流会を行っています。

3月11日(水)2014年度後期の研修交流会はグループに分かれて岡山医療生協の第七次長期計画「2015～2020夢プラン」についての討論や、支部ニュースの交流を行いました。

この日の参加は職員を含めて127人。医療生協に寄せる期待や、支部活動をすすめるための工夫などを活発に話し合いました。



〈高校生一日医療体験〉

3月12・24日の2日間、恒例となった高校生一日医療体験が行われました。毎回大変好評で回を重ねるごとに応募者が増え、今年は定員12尾人に対し350人を超える応募がありました。参加した高校生からは「医療では様々な職種との連携が大切なことが良くわかった」などの感想が寄せられました。

グリーンコープ生協おかやま 〈地区組合員総会を開催〉

2015年3月に、おかやま地域5会場、くらしき地域2会場、合計7会場で地区組合員総会を開催し、どの会場も多くの組合員が参加しました。



各地区委員会では、これまでの活動報告や来年度に向けての地区活動の案内に加え、お気に入り商品の情報交換なども行われ、とても充実した会となりました。



年々参加者も増えており、ますます地域に根付いた活動と運営が進んでいます。

公 告

岡山県生活協同組合連合会
会長理事 近藤 清志 (公印省略)

岡山県生協連第56回通常総会の開催について

岡山県生活協同組合連合会定款第45条に基づいて、第56回通常総会を下記の通り開催します。
記

- 開催日時 2015年6月30日(火) 10:00～12:00
- 開催会場 オルガホール(岡山市北区奉還町一丁目7-7)
- 議 題
第1号議案 2014年度事業報告書および決算関係書類承認の件(監査報告含む)
第2号議案 2015年度事業計画および予算決定の件
第3号議案 役員選任の件
第4号議案 役員報酬決定の件
- 代議員 総会代議員選出基準にもとづいて、別紙にて会員生協にお知らせします。
- 役員選任
・定款第19条、第20条に基づき、役員を選任を行います。
・役員選任規約第3条および第4条にもとづき、理事会で決定した選任する役員の数と選任区分(理事区、監事区)及び区分内の選出数は以下の通りです。
①理事区 13名 会員理事区 10名 全体理事区(女性枠) 3名 ②監事区 3名
候補者の推薦は、会員生協および当連合会理事が推薦(役員選任規約第6条)し、役員選任議案の通知は、定款第48条4項により行います。

「～なくそう核兵器～届けニューヨークへ」



おかやまコープの主催で「核兵器をめぐる問題の学習会とNPT再検討会議派遣者へ願いを託すつどい」が開催され、県生協連も参加しました。長崎大学核兵器研究センターの中村先生から

「核兵器廃絶にむけてわたしたちにできること」と題しての講演では、15,000発の核兵器の恐ろしさ、核兵器廃絶にむけた世界各国の動向、私たちにできることなど大変分かり易くお話頂きました。また岡山市被爆者会の方々も参加してのピーストークを行い、最後に代表としてニューヨークに行かれる金高さん、岡城さん、森本さん(県生協連の代表)3名が紹介され、各地域から願いを伝えるとともに、3人の決意表明が行われました。



中央が県生協連の代表 森本さん

消費者月間 講演会

食の安全安心を考える

～あふれる健康食品、サプリメント

の実態と私たちの食生活～

健康志向ブームにより、多種多様な「いわゆる健康食品」が私たち消費者の周りに氾濫しており、またテレビや広告などでの宣伝が行われています。健康食品は本当に効くのか、薬と一緒に飲んでも大丈夫なのか。機能性表示食品についても届け出制にむけた準備が行われており、私たちは、健康被害に遭わないために、健康食品の正しい理解をし、食生活のあるべき姿を学び、対応していくことができる賢い消費者をめざしていきます。

日時 2015年6月6日(土)

会場 岡山県 県立図書館 多目的ホール

募集 先着 100名 参加費 無料

14:30 開会

14:35 健康食品等相談事例、被害について 県消費生活センター

14:50 講演 **榎尾 幸子先生** 元中国学園大学現代生活学部
人間栄養学科准教授

16:30 終了 閉会

ホームページからもお申込みできます。 <http://okayama-con.net/>

